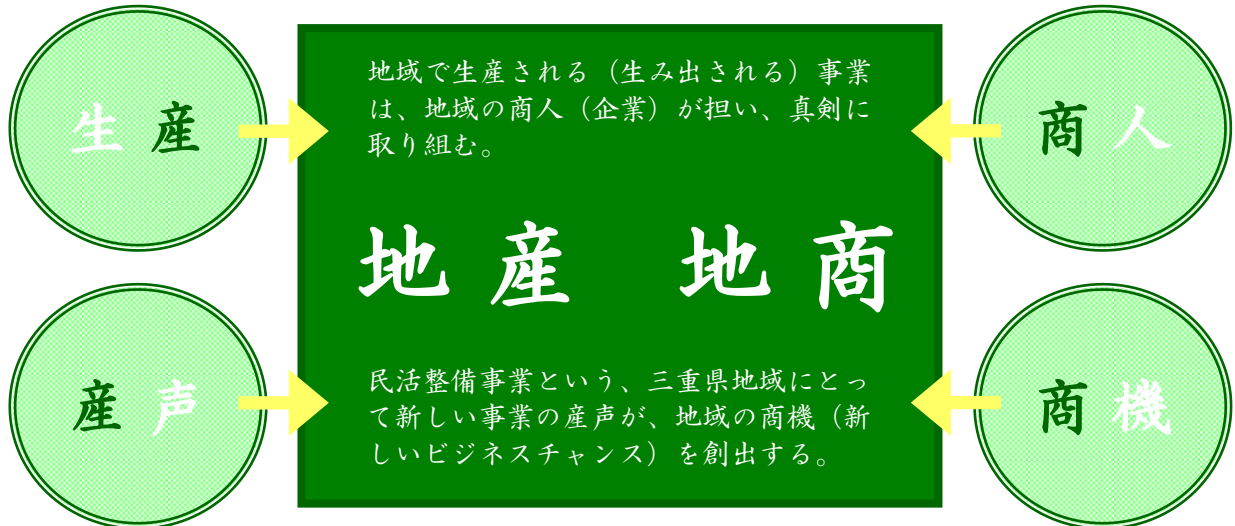


## 基本コンセプト：「地産地商」

私たちは、三重県初の事業モデルとなる「職員公舎（東紀州世帯用）民活整備運営事業」に対し、三重県内の企業によって取り組んでいくという主旨から、「地産地商」を基本コンセプトとして、事業の遂行にあたります。



全国的に見ても特筆すべき本事業は、前述の通り三重県にとって初めてとなる事業モデルであり、この地域に新しいビジネスチャンスを創出したという意味においても、「地産地商」を掲げます。

事業での各業務実施におけるポイントは以下の通り捉えています。

これらにつきましては、各提案書記載の提案事項および様式2-15（特に強調したい工夫）をご確認ください。

### 【事業・資金計画】

SPCの安定性を確保する資本金出資額と地元金融機関との連携。

### 【実施体制・リスク】

本事業を完遂するための体制・姿勢と、リスクに対する考え方。

### 【配置】

地域における位置づけ・役割と、地域に溶け込み、愛され続ける公舎。

### 【住棟・施工】

建物の耐震性確保のための計画と、それを担保する施工力。

### 【住戸】

生活空間に対する工夫・配慮と、安心と安全を約束する住まいの品質。

### 【維持管理運営】

円滑な維持管理と、メンテナンスコストを平準化した公舎運営。



尾鷲・熊野に醸成する「新しい公舎」



そして「地産地掌」へ・・・

伊勢神宮と熊野三山を結ぶ、世界遺産「熊野古道伊勢路」。この伊勢路を守る尾鷲市、熊野市の公舎は、この地を訪れる人を絶やさないための公舎でなければなりません。この地にお参りし、掌を合わせる人々。この「地産地商」は「地産地掌」への道標であると、私たちは考えています。